

レイケアニュースレター Laycare

VOL.25



大人の学習 I

お酒の世界

Lesson I 歴史

お酒の魅力、薬にもなれば毒にもなる不思議な飲み物。
日本酒、ビール、ワイン、ウイスキー、焼酎、最近では韓国
のマッコリも人気になっています。大人のたしなみとして
上手にお付き合いしたいお酒。
第一回目のテーマは歴史、お酒がどこで、どのようにして
生まれたのか探検してみましょう。



Lesson I 歴史

始まりは醸造酒

14,000年ほど前、中国の長江流域で稲作を中心とした農耕が始められていたことが1995年の発掘調査により確認されたと言われています。稲作と同時に定住生活が始まり、くわえて度重なる河川の氾濫と干ばつから貯蔵の習慣が起りました。しかし中国の黄土は気孔が多いため洪水に遭っても水はけがよく、蔵の穀物は一度水に浸ったうえに地温の温もりで発芽を始める。残っていた水分に刺激されて発酵が始まり、芳香を放つ液体を試しに飲んでみると…美味しい。こんなプロセスが酒の起源ではないかと語られています。醸造の歴史はまだ定説を見ていませんが、出土している陶器などの状況から、仰韶文化期（ぎょうしょうぶんかき／紀元前4,800年ごろ～紀元前2,500年ごろ）には酒づくりが行われていたことが推察されています。

オリエントでは紀元前5400年頃のイランでワインを製造していた痕跡があり、紀元前3000年頃にはシュメール^{※1}の粘土板にビールの記載があるそうです。エジプトでも紀元前2700年頃にはワインが飲まれていたそうです。かのツタンカーメンもワインをお飲みになっていたのです。



オリエント^{※2}の世界ではブドウのできる土地が限られていて高級な飲み物、それに比べ麦を使ったビールは庶民の飲み物だったそうです。ギリシャ、ローマではブドウの産地のためワインが盛んにつくられました。このころのお酒はまだ、アルコール度数の低い醸造酒だけでした。

※1：現在のイラク・クエートの南部チグリス川ユーフラテス川沿いにさかえた都市、いわゆる世界三大文明の一つ初期のメソポタミア文明の場所

※2：西洋に対して東方の地域 メソポタミア文明やエジプト文明の栄えた地域

蒸留酒の誕生

蒸留酒の歴史はユーラシア大陸^{※1}の東西でかなり異なった展開をみせています。現代の中国では蒸留酒を白酒（ぱいちゅう）と呼んでおり、その代表的なものが汾酒（ふんしゅ）と茅台酒（まおたいちゅう）です。中国では6世紀に汾酒についての記述が残されています。この汾酒は現在と同じ蒸留酒であったと考えられています。つまり、中国では蒸留酒は少なくとも1400年の歴史があります。

それに対してユーラシア大陸の西側では蒸留技術そのものは長い歴史をもっています。紀元前3000年頃のメソポタミアでは香水作りに蒸留機が使用されました。また、紀元前4世紀にギリシャのアリストテレスは、「海水を蒸留すれば飲める水を作ることができる」と文書に残しています。

しかし、それを酒に適用しようというアイデアはなかなか生まれず、8世紀になりヨーロッパの錬金術師^{※2}がたまたま醸造酒を彼らの仕事道具である蒸留器に入れてみると、それまで味わったことのない素晴らしい液体ができあがりました。彼らはそれを薬として扱ってラテン語でアクア・ヴィタエ（Aqua-vitae）

つまり「命の水」と呼んでいました。これが、現在のウイスキーや焼酎につながる蒸留酒の始まりとなりました。※1：ヨーロッパとアジアとを合わせた地形的に独立した地域

※2：化学的手段を用いて卑金属から貴金属（特に金）を精錬しようとする者



ここで知っ得

ピラミッド建造の影にビールあり

エジプトの灼熱の太陽の下で、何万人もの奴隷がムチで打たれながら大きな石を引き運んでいる…。たしかにわかりやすいイメージです。ハリウッド映画で、そんな場面をご覧になったことのある方も多いと思います。しかし、これはまったくの間違いなのです。実際は、ピラミッド建造には奴隷ではなく一般庶民が、それも自ら喜んで参加していました。なぜでしょうか？

それはビールが飲めるから ピラミッドづくりに働いた人に対して、報酬としてビールが与えられていたそうです。

納得！！労働の後のビールは格別ですからね。



参考文献：永昌源の中国酒
ウィキペディア（Wikipedia）
キリンビール『古代エジプトビール研究所』

株式会社レイケアセンター
〒541-0054 大阪市中央区南本町4-2-10 本町永和ビル8階
06-6245-7441
東京レイケアセンター
〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町2-2-9 第二登栄ビル7階
03-6206-0910

レイケアニュース編集室
今月のレイケアニュースはいかがでしたでしょうか。ご意見
ご感想をお寄せ下さい。
「レイケアニュース編集室」
Info@laycare.co.jp